

# 霊宝館だより

題字・畚野光義師

霊宝館だより 第149号

令和7年2月15日発行

和歌山県伊都郡高野町高野山306

公益財団法人高野山文化財保存会

高野山霊宝館

電話0736-56-2029

URL <https://www.reihokan.or.jp>

## 利用案内

■開館時間(冬期平常展期間中)  
8時30分～17時00分

■休館日 年末年始  
(展示替えに伴い臨時休館あり)

■拝観料(冬期平常展期間中)

大人 800円  
高・大学生 600円  
小・中学生 400円

■専用駐車場あり

高野町に住民票がある方、高野町内の学校に在籍する学生の方は入館無料です。  
(住所記載の証明書提示要)



重文十巻抄(円通寺・重文八字文殊曼荼羅図(正智院)「共に後期展示」)  
仏尊の絵画や彫刻の製作は、奉安される寺院や施主と打ち合わせの上、対象となる仏尊の図像が収載された図像集をもとに行われる。

## 令和6年度 冬期平常展 「密教の美術 ～文化財のあれこれ～」

令和7年1月18日(土)～  
3月30日(日)

臨時休館日 3月31日(月)・4月1日(火)

### 第149号 目次

- 冬期平常展のご案内……………2～3
- 収蔵品の紹介118……………4
- 高野山の古建築 第四十三回……………5
- 特集高野山……………6～7
- 高野山霊宝館からのお知らせ……………8

毎月21日(弘法大師の日) ご来館の方にプレゼントあり!

令和6年度 冬期平常展

「密教の美術」文化財のあれこれ

令和7年1月18日(土)～3月30日(日)

前期 1月18日(土)～2月24日(月祝)

後期 2月26日(水)～3月30日(日)

会期中無休

文化財の種類は多様であり、霊宝館には、多くの有形文化財である、彫刻、絵画、工芸、考古、歴史資料が収蔵されています。形や素材が同じでも、その文化財が存在する環境、歴史背景が異なり、また注目される学術的価値が異なると、まったく別の種類に分類されることもあります。本展覧会では各種の文化財を紹介します。今後、この多様な文化財に対して、さらに興味を持ってご鑑賞いただければ幸いです。

主な展示品

■ 絵画

- 重文 八字文殊曼荼羅図 正智院【後期】
- 重文 十卷抄 秘法部 円通寺【前後期巻替】
- 重文 高野山壇上并寺中絵図(寛政五年(一七九三)) 金剛峯寺

- 愛染明王像 西南院【前期】

■ 彫刻

- 重文 十一面観音立像 宝亀院
- 重文 阿闍如来立像 親王院
- 重文 板彫阿闍曼荼羅 金剛峯寺



重文 阿闍如来立像 親王院



重文 八字文殊曼荼羅図 正智院【後期】



高野山壇上并寺中絵図(寛政5年(1793)) 金剛峯寺



愛染明王像 西南院【前期】

次回展覧会

令和7年度重要文化財指定記念特別展  
「大伽藍」

令和7年4月2日(水)～6月29日(日)



県指定 真田幸村書状 蓮華定院【前後期巻替】



神道灌頂道具類 龍光院【後期】



舍利塔(信龍所持) 宝寿院



県指定 白銅手錫杖 金剛峯寺

工芸

県指定

白銅手錫杖 金剛峯寺  
白木五鈷杵(御室濟仁法親王寄進) 金剛峯寺

舍利塔(信龍所持) 宝寿院

宝剣 有志八幡講

灌頂道具類 龍光院【前期】

神道灌頂道具類 龍光院【後期】

書跡

国宝

紺紙金銀字一切経(中尊寺経) 金剛峯寺

県指定

真田幸村書状(焼酎の文・天野詣りことわり状)【前後期巻替】

県指定

高野版木製活字 蓮華定院【前後期巻替】  
西禅院

考古

重文

高野山奥之院出土品 一石五輪塔 金剛峯寺

県指定

高野山金剛峯寺境内出土の地鎮・鎮壇具 金剛峯寺

歴史資料

重文

高野版板木 金剛峯寺【後期】

民俗資料

国登録有形民俗文化財 高野山奉納小型木製五輪塔とその関連資料 円通寺

建造物

大門枳形部 金剛峯寺

大門銅瓦 金剛峯寺

大門釘 金剛峯寺

※文化財の保存上、展示品が替わる場合があります。

◎期間中、一部展示替えを行います。

収蔵品の紹介 118

神道灌頂道具類 一式 龍光院蔵

江戸時代



神道灌頂道具類

神道灌頂道具類とは、真言宗の伝法灌頂を神道に導入し、密教と神道が融合、いわゆる神仏習合した真言神道灌頂の際に用いられたものです。鎌倉時代以降、教義の理論化が進み、弘法大師空海撰出とされる『天地麗気記』を基にした神道、御流神道、三輪流神道、伊勢神道、兩部神道などの神道諸法流が生まれ、それぞれの法流で灌頂が行われま



小鏡



宝冠

した。各法流には、儀礼や作法が存在しましたが、明治政府の神仏分離令を受けて各地で盛んになった廃仏毀釈運動の後、法流は途絶えてしまい、現在は一部の道具類のみが伝わっています。道具類には、木製の「剣」(2振)、「玉」(2点)、「鏡」(2面、鏡面は鉄製)といった、いわゆる「三種の神器」(2対)の他、紙本著色の「宝



投華包み④ (鶴(鶴)草葺不合尊) 投華包み③ (彦火々出見尊) 投華包み② (瓊々杵尊) 投華包み① (天照大神)

冠」(1点)、鉄製の「大鏡」(5面)、「小鏡」(53面)、また紙製の「投華包み」(14包)が一括で揃っています。今日行われている真言密教の伝法灌頂や結縁灌頂の内容を照らし合わせて類推すると、三つの点が復元できます。一つ目は「宝冠」です。宝冠の表面の四方には、興味深い絵画が描かれています。これは神道灌頂を行う壇様を表しているようで、壇上には大きな鏡が5面、正面には小さな鏡が3面立てられています。伝法灌頂や結縁灌頂は、壇上に曼荼羅を敷き、受者はその上に檜の葉を投華し、曼荼羅上の仏尊と結縁しますが、神道灌頂では曼荼羅の代わりに鏡が敷かれていたことを表しています。二つ目は、「投華包み」です。包

みの表には、『日本書紀』や『古事記』といった日本神話に登場する天照大神(あまてらすおおみかみ)、瓊瓊杵尊(にぎのみこと)、鶴(鶴)草葺不合尊(うがやぶきあえずのみこと)、彦火々出見尊(ひこほほのみこと)といった神々の神名が記されていました。壇上の鏡は、これらの神々の御正体であったことが窺え、受者は投華したものが落ちた鏡に相当する神と結縁する、「投華得仏」ならぬ、「投華得神」を行ったのでした。伝法灌頂や結縁灌頂では、受者は敷曼荼羅に投華し仏尊と結縁した檜を、投華包みという懐紙の包みに入れて持ち帰ります。神道灌頂では、恐らくこの投華包みも同様な取り扱いが行われていたものと考えられます。三つ目は、「小鏡」です。小鏡には周囲の縁には2箇所耳がついており、細い紐が通されていました。これらの鏡は、灌頂道場内の神々の御正体として、灌頂壇の周囲に掛けられ、灌頂の受者は周囲に映し出された自分の姿を見て、灌頂を通じて法流を授かった法縁に感動し、感情を高揚させていたのかもしれない。本資料は、真言密教と神道が融合した、かつて存在した神道灌頂の様子が窺える、希少で貴重な資料です。(鳥羽 正剛)

連載

普門院 本堂

高野山の古建築

第四十三回

鳴海 祥博



手挟みの詳細 口ひげや尾鱗を見ると「ナマズ」のようだ。建築彫刻の主題としては希有の例だ。地震の災いを封じ込めようとしたのだろうか。



本堂の正面全景 本堂はほぼ七間四方で、中央に唐破風造りの一間の向拝が付いている。向拝廻りは建築彫刻で飾られている。



内外陣板唐戸の詳細 扉は全面が金箔押しで、豪華な金色の金具で飾られている。金具には三つ葉葵紋が彫金され、東照宮の遺構であることを確信させる意匠となっている。



本堂の内部 写真右手の三間四方が「内陣」で、正面側には板唐戸が建て込まれ、写真左手が参詣者の着座する「外陣」となっている。内外陣を板唐戸で仕切るのは異例である。

いないようです。正面の中央三間、奥行き四間の本堂中心部分は、ご住職や役僧さんが修法する内陣部分と、信者さんの座る外陣部分に分かれています。それは山内寺院の本堂としては一般的な構成なのですが、その内外陣の区切りとして、ここでは「板唐戸」が建て込まれていることがとても特異で注目です。普通は建具は建て込まれません。仮に建具を入れたとしても内陣の様子が見通せる「格子戸」です。内外陣を板唐戸で厳格に区切るのには、神社や霊廟建築で用いられる建築手法です。そのようなことを考えると、この部分は行人方東照宮の本殿部分の面影を色濃く残しているように思えるのです。

この「板唐戸」は全面が金箔押しで、隅々に金色の鍍金具が取り付けられています。鍍金具には三つ葉葵紋と唐草文が彫金され、これこそ正に徳川家霊廟の遺構であることを物語っていると確信できる意匠です。行人方東照宮は、寛永八年（一六三一）に創建され、その後慶安二年（一六四九）に仏殿の形式に建て替えられたとされています。葵紋の葉脈が細かいこと、扉に押された金箔が小さいことは注目で、それらは製作年代の指標とされています。寛

永十八年（一六四一）建立の徳川家霊台の鍍金具とその様式を比較したとき、少し時代の下つた慶安二年（一六四九）の製作と考えるのが妥当なように思います。本堂内部が色鮮やかな彩色で彩られているのも、山内の本堂としては珍しく、これも東照宮の装飾技法だと考えると納得できます。ただ現状の彩色には、幕末期以降に輸入された「オランダ群青」と称される特徴的な鮮やかな青色顔料が用いられていて、明治の再建時に大きく塗り直されているように思えます。

本堂の外観は現状では白木ですが、組物や墓股には彩色の染み込みの痕跡があり、彫刻類の隅々には顔料が残存していて、かつては外部も彩色で彩られていたようです。移築に際して、外部の部材は塗装を洗い落としただけでしょう。正面の向拝は建築彫刻が見事です。特に「手挟み」という部材に「ナマズ」が彫刻されているのは希有の例だと思えます。「ナマズ」の彫刻は、東京の上野東照宮にあると知人に教えて頂きましたが、東照宮繋がりに不思議な縁を感じました。

普門院本堂は見どころ満載です。

特集高野山

国登録有形民俗文化財

高野山奉納小型木製五輪塔及び関連資料の調査（その三）

木箱②



図1 国登録有形民俗文化財 高野山奉納小型木製五輪塔及び関連資料 円通寺（図中の①～⑬は木箱の番号）



図5 木箱⑩墨書 D面



図4 木箱⑩墨書 C面



図3 木箱⑩木書 B面



図2 木箱⑩墨書 A面

◎木箱の墨書に見る  
五輪塔の造塔背景

木箱⑩から⑬までの四面には、「寶塔八萬四千基之内」(図2・A面)、「一萬五千二百十八(基)箱入」(図3・B面)、「天保七年(一八三六)丙申八月改」(図4・C面)、「先師龍海起首此造塔供養畢(訖)」(図5・D面)と墨書されています。

また、木箱⑩の第三段目の天板には、「天保七□□六月十日改之 但馬国方茂吉別當 摩尼久右衛門出入之者」と墨書があります(図6)。

この墨書からは、二人の人物像が浮かび上がります。まず一人目は、但馬国(現在の兵庫県北部)の茂吉という人物で、別當(別当)と役職から地元の中心的人物で、五輪塔の勧進に参与したことが考えられます。ちなみに、但馬国は当時の円通寺住職の龍海上人(一七五六～一八二〇)の出生地です。地元をあげて五輪塔の寄進を推し進めたのか



図6 木箱⑩の墨書(棚の付番とともに、小型木製五輪塔を箱へ封入するのに立ち会ったことが墨書されている)

もしれません。  
二人目は、摩尼(現在の和歌山県高野町の北東部)の久右衛門という、円通寺に出入りしているという人物です。『紀伊続風土記』(天保十年(一八三九)編纂)によると、摩尼は杖藪(杖ヶ藪)、檜原、平原、林、南、西郷(以上、現和歌山県高野町)、市平(現同九度山町)、東宿、西宿(現同橋本市)の九村を合わせた範囲をいい、この集落のいずれかの住人であることがわかります。  
五輪塔は、円通寺の僧侶ばかりではなく、僧侶以外の職人なども関わって生産されていたことは『霊宝

館だより』第145号(令和6年2月11日発行)での記事で述べさせていただきましたが、この墨書により摩尼の集落の住人が木箱に五輪塔を封入する作業にも立ち会い、木箱や奉安する点数などを確認していたという小型木製五輪塔の勸募、奉安を巡って、大変興味深い背景がわかりました。

◎五輪塔造立の背景

さらに、五輪塔の底部には、「八万四千内 重源上人六百回忌菩提(梵字)」(図7)や「八万四千内奉為 重源上人六百年忌」と墨書されたものが十基ありました。重源上人(一一二二～一二〇六)は、源平の争乱の後、東大寺復興の大勸進を務めた高僧で、勸進のために全国に七箇所(東大寺別所)を設けました。東大寺別所(奈良市東大寺浄土堂)、伊賀別所(三重県



図7 五輪塔地輪底部墨書(小型木製五輪塔の造塔発願が重源上人六百回忌を記念して始められたことが墨書されている)

伊賀市 新大仏寺)、渡辺別所(大阪府中央区平野町内 発掘調査地)、播磨別所(兵庫県小野市 浄土寺)、備前別所(岡山県内不明)、周防別所(山口県防府市 阿弥陀寺)、そして円通寺を中興し、高野別所(真別所・新別所)としました。

このことから、当時の円通寺住職の龍海上人が、先師である重源上人の命日である建永元年(一一〇六)から数えて六〇〇回忌に当たる文化二年(一八〇五)を前に五輪塔勸進事業を発願し、その後を継いだ隆鎮上人(二七五六～一八五四)が奉納された五輪塔の数を勘定し、天保七年(一八三六)に木箱に納めて勸進事業を終了したことがわかります。五輪塔勸進事業は、事業開始から実に約三〇年もの歳月をかけた大事業であったことが窺えます。

◎木箱に五輪塔を封入した後の奉安状況

この度、円通寺の本堂の須弥段の下に木箱が横に倒された状態で発見されましたが、先述した側面の四面には、縦書きで「寶塔八萬四千寶塔」などの墨書がありました。また、木箱②、④、⑤、⑨から⑬までの側面上方や上面には「上」という墨書が

記されていきました(図8)。奉安当初の状況は五輪塔の天地が逆さまにならないよう、木箱が立った状態となるよう配慮されていたことが考えられます。



図8 木箱の墨書(木箱に小型木製五輪塔が納められた後、木箱の天地がわかるように「上」と書写されている。赤○印)

◎奉安点数の謎

木五輪塔は、八万四千また、木箱には「一萬五千二百十八(基)箱入」(図3)と墨書されていました。ですが、今回確認された五輪塔は、「一萬二千五百五十六基」です。その差は、「三千六十二基」にもほり、現在の他の所在は不明です。これらは、まだ円通寺のどこか、あるいは高野山内のどこかに存在しているのかもしれない。

(鳥羽 正剛)

# 高野山霊宝館からのお知らせ

## ◎ミュージアム法話 開催

「ミュージアム法話」(お坊さんによる法話と展示解説)を、左記のとおり開催いたしました。

11月9日(土) 講師 辻 雅榮師



ミュージアム法話開催風景  
(高野山本山布教師 辻 雅榮師)

## 今後の開催予定

5月17日(土)、6月7日(土)、  
7月12日(土)、8月2日(土)、  
9月6日(土)、10月18日(土)、  
11月8日(土)  
いずれも午後1時より約45分

## ◎霊宝館友の会員対象

「明けて拓本体験」

令和7年1月18日(土)、会員対象「明けて拓本体験」を開催しました。



「明けて拓本体験」開催風景

## ◎展覧会予定

重要文化財指定記念特別展

「大伽藍」

4月2日(水)～6月29日(日)

出陳品

国宝 善女竜王像

金剛峯寺

重文 大日如来坐像(西塔旧在)

金剛峯寺

重文 紺紙金字一切経(荒川経)

金剛峯寺

大宝蔵展「高野山の名宝」

7月5日(土)～10月5日(日)

出陳品

国宝 仏涅槃図

金剛峯寺

重文 蓮華形柄香炉

龍光院

重文 紙胎花蝶蒔絵念珠箱

金剛峯寺

秋期企画展

「(仮)奥之院く弘法大師信仰の始まりと広がり」

10月11日(土)～

令和8年1月12日(月)・(祝)

出陳品

国宝 又統宝簡集六十一

金剛峯寺

重文 高野山奥之院出土遺物

金剛峯寺

重文 南保又二郎納骨遺品

金剛峯寺

冬期平常展

「(仮)密教の美術くしあわせのカウント」

令和8年1月17日(土)～4月11日(日)

出陳品

重文 八字文殊曼荼羅図

正智院

重文 八宗論大日如来像

善集院

未指定 銀製群雀七宝花瓶

金剛峯寺

## ◎文化財の新指定

令和6年12月9日(月)付けで、2棟の建造物が国重要文化財に指定されました。

・重要文化財金剛峯寺

御影堂、西塔、山王院拜殿、山

王院鐘楼、准胝堂、宝蔵、大会

堂、愛染堂、三昧堂



重文 金剛峯寺御影堂  
(写真提供 高野町教育委員会)

・重要文化財金剛峯寺金堂及び

根本大塔

金堂、根本大塔

## ◎空海・密教を自宅で学べる

『高野山大学 社会人向けコース』



高野山大学コース広告

高野山大学では、社会人の皆さまの人生のさらなる学びを応援するため、オンラインで受講可能な密教文化コースを開設しております。

空海、マンドラ、お遍路、歴史など幅広い学びを、続けやすい学費にてご案内しております。詳細は大学HP、またはお電話にてご相談ください。



大学 HP QR コード

令和7年4月1日から、  
通常の開館時間が  
9時00分から17時00分まで  
となります。

令和6年12月3日(火)付けで、3棟の建造物が国登録有形文化財に登録されました。

・国登録有形文化財

光臺院多宝塔、光臺院経蔵、密

厳院菟萱堂